

科目名 (Eng)		産業経済史(History of Industry and Economics)							
担当教員		川崎 俊郎							
対象学年等		学科・学年		授業期間・区分・単位数・時間数			分野	形態	学修単位科目
		一般科目 (工学系4科)	5	前期	必修	1	30	一般	B
目標基準 との対応	福島高専の教育目標との対応：(A-1)．(A-2)．(A-3)．(A-4)．(A-5)． 卒業時に身に付けるべき学力や資質・能力との対応：1)．								
	JABEE基準1(1)との対応：(a)．(b)．								
授業の概要と方針		明治以降の日本について産業・技術・経済の分野から概観する。							
到達目標		①資本主義が日本に与えた影響を理解する ②近代以降の日本における技術受容と技術開発の概要を理解する ③経済統計を図表化して授業の内容を自ら説明できるようにする							
授業計画									
	週	授業項目		理解すべき内容			準備学習		
前期	1	前近代化の日本		近代経済成長、18世紀の日本と欧米			①配布プリントの次回分を読んでおく ②授業内容のまとめをやっておく		
	2	明治維新と殖産興業		殖産興業政策とその具体例					
	3	産業化の時代1		日本の産業革命、機械化、工場化					
	4	産業化の時代2		技術移転、先進国と後進国、開発者利益、後発者の優位性					
	5	資料演習1		統計の図表化、名目値と実質値					
	6	二重構造		二重構造の特色、重化学工業化					
	7	世界恐慌		金本位制度の崩壊、近隣貧窮化政策					
	8	第二次世界大戦		統制経済、大東亜共栄圏の経済、技術戦としての第二次世界大戦					
	9	戦後復興		戦後改革、GATT－IMF体制と日本					
	10	資料演習2		統計地図の作成、GISの利用					
	11	高度経済成長1		高度経済成長の特色、所得倍增計画					
	12	高度経済成長2		高度経済成長の影響、石油危機とドルショック					
	13	経済統計から見た日本の近代化1		総合演習					
	14	経済統計から見た日本の近代化2		総合演習					
	15	近代経済成長後の日本		授業のまとめ			試験の見直しをしておく		
試験について		前期中間試験は実施しない。前期期末試験は試験期間中に50分で実施する。							
評価方法		定期試験70%、課題およびレポート30%で評価する							
教科書		とくに指定しない							
参考書		「高等学校 日本史B」伊藤純郎ほか、清水書院、および「日本経済史」(全8巻)梅村又次ほか編、岩波書店。							
関連科目		経済学概論、法学概論、技術者倫理							
履修上の注意		授業は配布プリントを中心に配布するので必ずファイルすること。課題・レポートは期限や様式を守ること。							